

話題 好きなことから自分を発見!



●子どものぎよつとするような発言も。



●ぐつとこらえて否定せず、何に興味を持ったか聞いてみる。



●子どもの答えを考察すると……。



●意外な子どもの興味が見つかるかもしれません。



●自己分析で勝つ/野村るり子先生

1977年田園調布雙葉学園中学校卒業後、アメリカへ単身留学し、ペンシルバニア州立大学体育学部卒業。慶應ビジネススクールでMBA取得。ハーバード大学教育大学院のEdM(教育学修士)取得。2000年に㈱ホースを設立。代表取締役として、米国のキャリア指導プログラム書籍『THE 2006 WHAT COLOR IS YOUR PARACHUTE?』(Richard Nelson Bolles)をもとに、個人向けキャリアカウンセリング、企業向けビジネス講座を展開。著書は「面白いほど身につく論理力のドリルブック」ほか。

味(長所)になります。理想は七つの成功体験をつくること。七つと行う動パターンは共通項が見込めて、強味がより明確になるんです。なにが七つ?! そんなにたくさん成功体験をうらの子は持っているだろうか。というか、そもそも成功体験なんてある……? 親の苦悩(?)を察したのか、野村さんは続けた。

すよ。植木に毎日水をやりをしたとか、ナイフで鉛筆を上手に削ったというようなことでも、立派な成功体験です。本人が気づいていないこともあるので、うまく聞き出してあげてください。逆に、本人が成功体験だと思っていない、親には首を傾げる内容ということもありうる。まずは親と話を、それぞれに成功体験を出し合っところから取捨選択すればいいと思います。

成功体験から強味(長所)を導き自己アピールにつなげる。

七つの成功体験と三〇枚のカードを準備

さて、テクニクの取捨選択などろで、次なる課題は「質問されたことに対して何を答えるか」だ。これもまた、わが子にとっては難関である。「面接とは、面接官とのコミュニケーション。面接官が何を聞きたいのかを理解して答え、さらにその答えから、「うちの学校に来てほしい」と思ってもらえないと、コミュニケーションが成立したと言えません。」

こう語るのは、教育コンサルタント会社「ホース」の代表取締役、野村るり子さんだ。

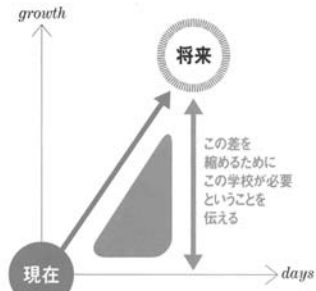
ハーバード大学教育大学院教育学修士を取得した経歴を持つ野村さんは、個人向け教育事業の一環として、海外留学や国内大学のAO入試のための受験指導も行ってらる。一般の大学入試とは異なり、面接が核となるので、学力では見劣りするが、地頭の良い子をたくさんのお門校に入学させた実績を持つ。

その野村さんが先に言っていたように、面接官がこの子を入学させたいと思う回

答をわが子にさせるとは一体、どうすればいいのだろうか? 「まずは自己分析すること。学校はリーダーシップがあるとか、ムードメーカーとか、その子が入学するとどんなメリットがあるかを見ます。それには、自分の長所を把握しなければならぬんです。長所といっても、明るいとかやさしいとかだけではなく、どんなことに結果を出したかを具体的に示しながら話す。そのために、自分が成功したと思う体験を順序だててまとめていくのが大事だと思います。」

成功体験に必要な要素は、二目標(何を達成したか)と一障害(達成するために克服しなければならなかったこと)と三行動(どんなことをしたか)と四結果(何を達成したか)と五、その成果を証明する数字です。

「この中で、三の『行動』がその子の強



成功体験の強味から将来の夢を探してみよう

志望動機は校風や特色を織り交ぜながら自己PRするのが効果的。例えば「私はネイティブの先生が多く留学制度の整った、貴校で英語を学びたいと考えました。なぜなら、私は小学校4年生から国際交流会に参加し、地域に住む外国の人たちと接してきたので、将来は通訳の仕事に就きたいと考えているからです」など、現在と将来の夢との間を埋めるのに、この学校が必要ということを明確に伝えましょう(野村さん)。

「自己分析をするときは、第三者的な立場にいる人が必要です。家族なら、一般的には父親がいいでしょう。母親が見る子どもの良さ、子ども自身が考える自分の良さ。それらのなかからどれを子どもの強味にするかを、父親が客観的に判断する」といいますよ」

ちなみに、成功体験には多少の脚色、情報調整はあってもいいが、ないものがあるとするのは厳禁。面接で聞かれたときに、子どもはおどおどしてしまつたため、いい結果を生まないのだ。

「現在の自分を把握したら、今度はゴールを明確にする。将来、どんな職業につきたいか、何を成し遂げたいか、といったことを親子で話し合ってみてください。ポイントとは、子どもの考えは否定しないこと。たとえば、子どもが『将来はなめくじになりたい』と言つたとしても、『なれるわけないよ』ではダメ。『なぜそう思ったの?』と聞いていくと、『通つた後にきれいな線ができるから』と答えるかもしれない。『この子はきれいなものに惹かれるんだ』とわかれば、画家、グラフィックデザイナーといったアーティスティックな仕事が目標として出てくるんです」

子どもの能力は無限。だからこそそれに気づき、伸ばしてあげることが大切、と野村さんは言う。つまり、自己分析は面接のためだけにとどまらず、子どもの可能性を知るチャンスなのだ。息子と将来についてじっくり話すなんてことはまづなかったから、何よりの機会になりそうだとわ。

こうして、子どもの将来の目標が見えてきたら、実際に面接でどのように答えるか、順序立てて組み立てていく。

面接で聞かれる質問ナンバーワンは、言うまでもなく志望動機。これには校風や教育理念などを挙げるのが多いパターンだが……

「それは受動的な理由であつて、アピール度が低い。私のところでは、現状と将来の目標との間にあるギャップを埋めるには、この学校が必要だと答えるように教えています。『なぜなら……』と学校に惹かれた理由を具体的に述べれば、自分の強みを伝えられますし、この学校で学びたいという熱意も感じてもらえます。もし、校風や教育理念などを挙げるなら、子どもの性格や行動に引き寄せて語ることに。そのためにも、必ず、子どもと一緒に学校に足を運んでみてください。面接では、話のなかに、学校訪問しないとわからないようなことを交えるとベストです」

そして、ようやく最後の作業、質問カードの作成に突入である。

この質問カードとは、ハガキ大のカードに面接で出されそうな質問を書き、裏に答えを書き込んだもの。ちょうど英語の単語カードと同じスタイルだ。「これを三〇問程度作り、答える練習をしていきます。このカードを持ち歩けば、ちょっとした時間でも練習できますよ」。

カードの作成は、受験の一カ月前くらい前までがリミット。それまでに七つの成功体験を進めておかなければならないから、意外に時間がかかりそう。受験生は

塾や模試で忙しい。今から少しずつ準備していくといいだろう。